

各 位

本社所在地 大阪市中央区久太郎町三丁目 6 番 8 号
 会社名 夢の街創造委員会株式会社
 代表者 代表取締役社長 中村 利江
 (コード番号: 2484 東京証券取引所 JASDAQ 市場)
 問合せ先 戦略企画本部
 経営企画グループ グループ責任者
 延山 勇貴
 TEL: 03-6777-0877
 URL: <http://www.yumenomachi.co.jp/>

**平成 29 年 8 月期第 2 四半期業績予想と実績値との差異および
 通期業績予想の修正に関するお知らせ**

平成 28 年 10 月 13 日に「平成 28 年 8 月期決算短信[日本基準] (連結)」の中で公表いたしました平成 29 年 8 月期の第 2 四半期累計期間 (平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日) の業績予想数値と本日公表の実績値において差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、当第 2 四半期累計期間の業績を踏まえ、平成 29 年 8 月期通期 (平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日) の業績予想数値につきましても修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1、業績予想数値と実績値との差異

(1) 平成 29 年 8 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想数値と実績値との差異
 (平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 2,200	百万円 260	百万円 260	百万円 125	円 3.10
実績値 (B)	2,525	372	368	181	4.51
増減額 (B-A)	325	112	108	56	
増減率 (%)	14.8	43.2	41.6	45.3	
(ご参考) 前第 2 四半期実績 (平成 28 年 8 月期第 2 四半期)	2,008	213	218	200	4.98

(2) 平成 29 年 8 月期第 2 四半期 (累計) 個別業績予想数値と実績値との差異
 (平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,300	百万円 200	百万円 100	円 2.48
実績値 (B)	1,432	298	171	4.26
増減額 (B-A)	132	98	71	
増減率 (%)	10.2	49.5	71.6	
(ご参考) 前第 2 四半期実績 (平成 28 年 8 月期第 2 四半期)	1,138	189	201	4.99

2、通期業績予想の修正

(1) 平成29年8月期通期連結業績予想数値の修正

(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 4,600	百万円 800	百万円 800	百万円 450	円 11.15
今回修正予想 (B)	5,000	800	800	450	11.15
増減額 (B-A)	400	—	—	—	
増減率 (%)	8.7	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成28年8月期)	4,154	572	579	347	8.63

(2) 平成29年8月期通期個別業績予想数値の修正

(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 2,800	百万円 750	百万円 500	円 12.39
今回修正予想 (B)	3,100	750	500	12.39
増減額 (B-A)	300	—	—	
増減率 (%)	10.7	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成28年8月期)	2,380	607	394	9.79

(注) 当社は、平成29年3月1日付で普通株式1株を4株にする株式分割を行っております。なお、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

3、差異及び修正の理由

(業績予想差異と実績値との差異)

売上高は、ゲスト注文機能の新設、「Apple Pay」などの決済手段の増加、PCサイト全面リニューアルによるユーザー利便性の向上、配達代行モデルのスタートにより、連結・個別ともに、出前館事業のオーダー数が増加したことから、前回発表予想を上回る結果となりました。また、売上高の増加に伴い、営業利益、経常利益、四半期純利益のいずれも前回発表予想を上回る結果となりました。

(通期業績予想修正の理由)

連結・個別ともに、売上高は、上期に実施した施策により、引き続き出前館事業のオーダー数が見込まれることから、前回発表予想を上回る見通しです。利益面では、配達代行モデルスタートによる営業人員の増員、売上拡大のための広告宣伝費の増加を予定していることから、前回発表予想より横ばいとなる見通しです。

(注) 上記予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

以上